

令和3年2月

# 本高図書委員会だより

第04号

2年担当

今回は2年図書委員2名+読書家2名!

## 危険なビーナス

2年図書委員 F君おすすめ

昨年ドラマ化しました!

主人公・伯朗のもとに現れた弟の妻を名乗る謎の女・楓。行方不明になったという弟を捜し、名家に乗り込むがそこで事件に巻き込まれていく……。

次々に起こる不可解な出来事。複雑に絡み合う謎。事件の裏に隠された真実と楓の正体とは……!?

ドラマ見た後に読むともっと楽しめるかもです!

## 旅猫レポート

2年読書好き Yさんおすすめ

私は有川浩さんの作品が大好きなのですが、その中でも「旅猫レポート」は1.2を争うほどお気に入りです。元野良猫のナナとその飼い主サトルはある事情から新たな飼い主を探すための「最後の旅」に出ます。旅の先々で出会った風景、人々、それぞれの優しさ、絆の深さに胸がじんわりと温かくなります。

特筆すべきはナナの大好きな人への洞察力と行動力で、優しさのかけ方、愛情の受け渡し方は感涙ものです。

また、人として真っ当な生き方、人間と動物の関わり方について考えさせられる物語でもあります。お家時間にぜひ!

Fのつぶやき 受験勉強。。。

Yのつぶやき 推しが尊い

## 獣の奏者 I 巻

2年図書委員 Y君おすすめ

「獣ノ医術師」を母に持つ主人公エリン。そんなある日、戦闘用の獣である闘蛇がすべて死んでしまうという事件が勃発、。

全ての責任が母に向けられ処刑され一人になってしまったエリン。

一人きりになったエリンの心の支えとなったのが闘蛇の天敵王獣だった。

全4巻の長編ファンタジー小説。ぜひ読んでみて下さい。

アニメにもなってますよ!

## りゅうおうのおしごと!

二年の異端児・T君のおすすめ

「現実に負けたフィクション」「半分実話」「女子小学生を弟子にとってないからまだ勝ってる」など藤井聡太が将棋のタイトルホルダーになってネットで話題になったラノベ「りゅうおうのおしごと!」

主人公、九頭竜ハーが玄關を開けるとそこには「約束どおり、弟子にしてもらいにきました!」女子小学生がいて…。

対局シーンの主人公たちの心理描写はもちろんのこと、日常シーンが面白い。ヒロインたち超可愛い!天衣ちゃんマジ天使用い!!!

弟子たちを取ってどんどん強く、どんどんかっこよくなっていく主人公を見てやってください。だれでも楽しんで読める作品になっています。ぜひ読んでみて下さい!

今号は裏面も読んでね! ↴

今号裏面は、図書館利用生徒からの「一言」コーナー！！

生徒と先生…コラボだよ！！

ニーチェの言葉

2年O君のイチオシ！！

<いい子> じゃなきゃいけないの？ 香山リカ著

### 3年Tさんからメッセージ

今回、入学予定の大学の課題で使う本を探しているときにこの本を見つけました。

この本で、最近では、反抗期が少なくて「いい子」と言われる子供が増えてきていることや、精神科に来る子供の多くは「いい子」であったことを知りました。「いい子」でいようとするのがかえって自分を傷つけてしまう可能性があるのです。

またこの本を読んで、私自身や周りの人も無意識のうちに、親や大人に嫌われないようにするためや期待に応えるために本当の自分を押し殺し、無理をして「いい子」になってしまっているかもしれないと考えるようになりました。今は良くて、いつか爆発してしまったり、自己肯定感が低いままになってしまうと思います。

将来教育者となったときには、多少の喧嘩やすれ違いが起きてしまうとしても、子供の真の意見や想いを聴き、自分らしく心も健康に過ごせるように手助けしたいと思いました。

最後に、私は大学受験の情報収集のためにたくさん図書館を利用しました。大学や学部についての本や、将来についての本だけでなく、過去問や面接、小論文についてもたくさんあります。特に小論文は、カウンターで頼めば練習問題ももらえるので進路実現に向けて積極的に図書館を活用してほしいです。

この本は、ドイツの哲学者フリードリヒ・ニーチェの著作から数々の箴言を選び抜いた詩集のような作品です。

「昼の光に夜の闇の深さが分かるものか。」

このニーチェの生に対する情熱溢れた言葉は、人生の明るい側面に気を取られがちな私達に、人生の闇にも目を向けすべてを受け入れて生きることの重要性を気付かせてくれます。

上に挙げたように、ニーチェの洞察は先入観にとらわれがちな現代人の価値観を揺さぶってきます。私もその例にもれず、ニーチェの鋭い言葉にはいちいち唸ってしまいます。

ということで、これを読んでいるあなたもぜひこの本を手に取り、価値観を揺さぶられてみてはいかがでしょうか。

### 平岡先生からメッセージ

「44.9%」。この数字が何かわかりますか？これは、日本の高校生に向けた「自己肯定感を持っているか」の質問にYESと答えたパーセンテージです。SNSが発達し、誰もが「イイネ」をもらえる時代にどうしてこのような数字が出てしまうのでしょうか。

ニーチェが生きた時代も、同じように自己肯定できず悩む人が多い時代でした。19世紀に起きた産業革命により、人々の生活は豊かになった反面、機械化による大量のリストラで自信を失ったり、生きることすら嫌になってしまった人が多くいました。そんな人々に、自分や運命と向き合い「強い生き方」を説いたのがニーチェでした。彼の言葉は、情熱的で独創的。とにかくエネルギーに溢れていて、まさにO君の言うように「価値観を揺さぶられる」言葉ばかりです。この本は、そんな言葉を選び集め、かつわかりやすくまとめられたすばらしい本です。

あるタレントがコロナウイルスは「人とのつながり」を壊すウイルスだと言っていました。人と会えない孤独感は、どんどん自己を蝕んでいきます。こんな世の中でも自らの運命と受け入れ、「これも生か。よしもう一度。」と述べたニーチェのような強さが、コロナ禍に生きる私たちに必要なのではないのでしょうか